プッチーニ作オペラ『蝶々婦人』Staatsoper Hamburg: Madama Butterfly

日本の長崎を舞台にしたジャコモ・プッチーニの名作オペラが上演されます。
1890 年代、アメリカ海軍士官ピンカートンと結婚した 15 歳の少女“蝶々さん”。夫が帰国した後も子どもと共にその帰りを信じて待ち続けますが・・・・・・。切ない悲劇ですが、『君が代』や『さくらさくら』など、日本人に馴染み深い楽曲の数々が各シーンにちりばめられており、普段オペラを見慣れない方でも親しみやすい作品です。本作品の上映でも、ハンブルク州立歌劇場と DJFE は“着物企画”を予定しております。着物をお持ちの方は着物姿でご来場頂き、和の情緒とともにオペラを楽しもう！という内容です。お着物の方にはもしかしたらインタニュー等あるかもしれません。その際、通訳が必要な方は DJFE がお手伝いいたします。皆様も一緒に和服での観劇はいかがでしょうか？
オペラの詳細はこちらもご参照ください。

日時: 2018.03.16 (金) 19:30 ～ 21:10, 前説 18:50～
場所: Staatsoper Hamburg, Große Theaterstraße 25,20354 Hamburg
費用: 6,00 ～ 109,00 ユーロ

Giacomo Puccini ジャコモ プッチーニ ***Madama Butterfly 蝶々夫人***
Foto Bernd Uhlig

指 揮: **ケント ナガノ** 演 出: **ヴィンセント ボサード** 舞台美術:**ヴィンセント レマー**
衣 装: **クリスチャン ラクロワ** 照 明: **ギド レヴィ** 脚 色: **バーバラ ヴァイゲル**
コーラス:**クリスチャン ゲンター** 蝶々夫人:**セレナ ファーノッチア**、スズキ:**ナデツダ カリヤツィナ**、ケイト ピンカートン:**ルザナ グリゴリアン**、ピンカートン:**ヴィンセンツォ コスタンツォ**、 シャープレス領事:**アレクセイ ボグダンチコフ**(初役)、ゴロー:**セルゲイ アバブキン**、 ヤマドリ公爵:**ペーター ガリアード**、 叔父ボンゾ:**アレクサンダー ロスラベッツ**、 やくしで:**エウン-セオック ジャン/ベアンハード ワインドーフ**、 勅使:**ヨハン クリスティンソン**、登記役人:**ドー・ジョン キム/クリスチアン ボーデンブルグ**、 蝶々夫人の母:**イネス クレブス/ルシヤ マリンコビッチ**、 いとこ:**クリスティーナ ガーレン/ベッティーナ ローゼル**、 叔母:**マリア コラー/ヴェゼリナ テネヴァ**、**ハンブルク州立歌劇コーラス**、**ハンブルク州立フィルハーモニー**

イタリア語による上演、ドイツ語の字幕
ハンブルグ州立歌劇場振興財団による支援。
1900 年頃長崎、 アメリカ海軍のピンカートン中尉は蝶々さんと恋におちる。結婚式は日本の伝統にのっとって行われたがそれはピンカートンにとって**茶番**というほかはなかった - そしてしばらく後には蝶々さんと彼らの息子は日本に置き去りにされてしまう。3年後、ピンカートンが公務により再度来日するが蝶々夫人の為ではない。新しい妻と共に彼の日本の息子をアメリカへ連れて帰るためである。そして蝶々さんは自刃してしまう。
1904 年の初演は歴史的な失敗となった:ミラノ・スカラ座の観客はエキゾチックな背景について何も理解していなかったが、プッチーニは「私の蝶はそのまま存在し続ける。私が書いた中で最も繊細なオペラ」と信じていた。数か月後に修正された蝶々夫人はテアトロ・グランデ・ブレシアにて大成功を収めた。今日までプッチーニの「日本の悲劇」は最も愛され心を揺さぶるオペラの一つである。

2018年3月13日、16日 それぞれ19時30分より上演